

シャンプーの詰替製品利用の要因分析

Factors influencing a choice behavior of a refill for a shampoo bottle

○山川肇[†], 阿部桃子[‡], 西井和浩[†], 渡辺浩平[※]

Hajime Yamakawa, Momoko Abe, Kazuhiro Nishii, Kohei Watanabe

1. はじめに

近年、循環型社会の形成が大きな課題となり、ごみの発生抑制・再使用が求められている。詰替製品の利用もその一つの形態と考えられる。これまで、詰替製品の利用による環境負荷の削減効果や詰替製品の購買動向^{1,2)}などの調査研究はなされているが、詰替製品の利用要因を明らかにした分析はなされていない。

そこで本研究では発生抑制・再使用行動の一つである詰替製品の利用を促進するために、その利用度に影響する要因を明らかにすることを目的とした。

2. 主たる解明点および結論

2.1. 検討した要因と分析方法

本研究では、シャンプーの詰替製品の利用に影響する要因として、詰替製品購入意図、価格評価、店舗の取扱状況、ごみ減量意図、ごみ問題に対する認知、詰替行動についての評価、もったいない意識などを想定し、Backword法による重回帰分析により要因に関する仮説を検証した。

2.2. データと調査の概要

データは、大阪府箕面市の住民を対象とした質問紙調査によって収集した。調査対象は以下のように抽出した。初めに箕面市の地区別のごみ量の資料に基づき多い地区、少ない地区各2地区ずつを選択した。そして箕面市住宅地図に基づき各地区から250世帯ずつ、計1000世帯を系統無作為抽出により抽出した。ただし本報告の分析では地区の違いは考慮していない。調査法は郵送法である。なお調査への依頼ハガキを送ったところ、あて先不明や回答拒否の世帯があったため、実際に調査票を送ったのは880通であった。平成18年12月19日に調査票を発送し、平成19年1月12日までに回収できた286通を分析対象とした。全体としての回収率は28.6%、実際に調査票を送ったうちの回収率は、32.5%であった。回答は家族の食料品・日用品を購入している人に依頼している。

[†] 京都府立大学, 606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5, yamakawa@kpu.ac.jp

[‡] (株)プロルート丸光,

[※] 帝京大学,

2.3 分析結果と考察

要因分析の従属変数として用いた「詰替製品の利用度」の回答結果を図1に示す。これは「あなたの家庭では、次の日用品について、それぞれの程度詰め替えを行っていますか」との問いに対して、シャンプーについて「ほぼ行う」(1)から「まったく行わない」(5)までの5段階評価で回答してもらった結果である。

図のように「ほぼ行う(1)」が約5割と最も多いが、ある程度のばらつきがある。

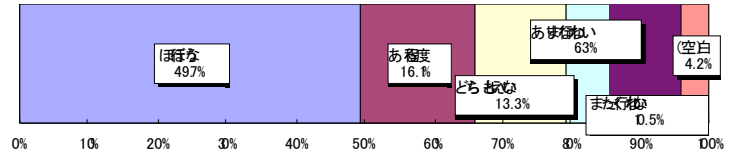


図1. 調査対象における詰替の状況

次に、この「詰替製品の利用度」を従属変数、2.1で述べた各種の変数を

独立変数としたBackward法による重回帰分析を行った。さらに、その主要な要因であった「詰替製品の購入意図」についても、これを従属変数とした同様の分析を行った。結果を表1に示す。

結果からは、シャンプーの詰替製品の利用度には詰替製品の「購入意図」のほか、「価格」「店舗の取り扱い」が影響しているという結果となった。すなわち「価格」、「店舗の取り扱い」は「購入意図」とは独立に影響しており、価格政策、詰替商品の品揃えの充実は、消費者の意識とは独立に効果があると考えられた。

一方、購入意図の要因としては、「ボトル入りを買うのは気が引ける」といった社会規範意識や、詰替製品利用のごみ減量に対する有効性評価、詰替の手間の評価、などが相対的に強く影響していた。このことから、

詰替製品はごみ減量に有効で望ましい、という情報・評価を共有できるような企業や行政の働きかけとともに、詰替の手間を軽減するような製品開発も、さらに詰替え製品利用を促進するために有効であると考えられた。

表1. 詰替行動の要因分析の結果

従属変数 変数名	詰替製品の利用度			詰替製品の購入意図		
	偏回帰	標準偏回帰	判定	偏回帰	標準偏回帰	判定
詰替製品の購入意図	0.501	0.389	**			
ごみ減量意図	0.145	0.095				
価格の重視度	0.138	0.131	*			
割安感	0.168	0.137	*			
値引き頻度				0.126	0.142	*
店舗の取り扱い度	-0.171	-0.157	*			
ごみ問題の重要性評価				0.163	0.121	*
ごみ減量有効性評価	-0.216	-0.119		0.286	0.203	**
利便性	-0.166	-0.134				
詰替の手間	0.124	0.136		-0.122	-0.173	**
かさばりの評価	0.168	0.136		0.165	0.171	*
ボトル入りに対する社会規範				0.163	0.210	**
もったいない意識				0.120	0.159	*
	R ² =0.296 F=8.537 DF=9,183 P=0.0000			R ² =0.376 F=16.039 DF=7,186 P=0.0000		

**:1%有意 *:5%有意

【引用文献】

- 1) 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策本部企画課リサイクル推進室、「平成12年度容器包装廃棄物排出実態調査報告書」、2001/2) Tokyu Agency 旬感レポート vol.10:「増える詰め替えシャンプーの購入 10年で26.4倍」2006年7月 (http://www.tokyu-agc.co.jp/qpr/syunkan/pdf/vol10_0607.pdf)